



あなたもできる学会発表！

～抄録作成のコツ～

公益社団法人  
神奈川県理学療法士会  
学術局 研究支援部

症例報告編



公益社団法人  
神奈川県理学療法士会  
Kanagawa Physical Therapy Association



# この動画の目標

## 1. 症例報告の抄録作成の ポイントがわかる



# 抄録の構造（研究報告）

## ◆ 背景（Background）・目的（Objective）

研究の背景や目的を簡潔に示します。

研究の意義や研究に取り組む理由などを記載します。

## ◆ 方法（Methods）

研究に使用した方法や手順を簡潔に示します。

対象、サンプルサイズ、使用した技術やツールなどを含めて記載します。

## ◆ 結果（Results）

研究で得られた主要な結果や発見を簡潔に示します。

定量的なデータや定性的な観察結果を含めて記載します。

## ◆ 考察（Discussion）・結論（Conclusion）

得られた結果から考えられることを示し、結論や示唆を述べます。

研究の課題や将来的な応用、さらなる研究の発展性も記載します。

症例報告は  
記載方法が異なります

研究報告は、  
「5分動画シリーズ～抄録作成の  
コツ（研究報告編）参照」



# 抄録の構造（症例報告）

## ■症例の全体像がわかるように記載する。

### ◆ 症例紹介（患者背景）

年齢、性別、既往歴、家族歴、社会歴、主訴、現病歴などを整理して簡潔に記述する。

### ◆ 理学療法評価

理学療法評価（初回評価）を具体的に記述する。

### ◆ 理学療法介入

理学療法の介入方法（頻度や強度など）を具体的に記述する。

### ◆ 経過（必要に応じて）

理学療法介入が一定期間行われる場合は、経過を記述する。

### ◆ 結果（最終評価）

理学療法介入後の結果を具体的に記述する。

### ◆ 考察と結論

エビデンスに基づいた臨床的思考と症例報告の総括を記載する。



# 抄録作成のコツ（症例報告）

## ■ 『症例紹介』の書き方

- ✓ 症例の**背景**を記載する。  
どのような症例なのか？  
年齢、性別、既往歴、家族歴、社会歴、主訴、現病歴などを整理して簡潔に記述する。

『症例紹介』は、症例のスタートラインですので、  
**症例の背景がわかるよう**に記載しましょう。



# 抄録作成のコツ（症例報告）

## ■ 『理学療法評価』の書き方

- ✓ **理学療法評価**や**検査結果**などを記載する。
  - どのような評価を行いましたか？
  - 必要な評価や結果を抽出して客観的に記載しよう。
  - どの時点での評価であるか明記しよう。
  - 理学療法介入後の経過や結果につながるよう意識しよう。

『理学療法評価』は、いわゆる初期評価ですので、**客観的に評価結果**を記載しましょう。



# 抄録作成のコツ（症例報告）

## ■ 『理学療法介入』の書き方

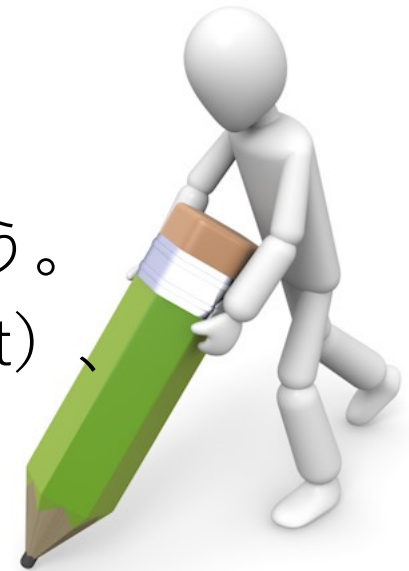
- ☑ **どのような理学療法**を行ったのかわかるように記載する。

どのような介入方法を行いましたか？

介入方法（回数、頻度、強度など）を具体的に記載しよう。

どのような対象に（who）、いつ（when）、何を（what）、

どのように（how）行ったかを意識して記載しよう。



『理学療法介入』は、著者が実際に行ったことを

**読者が再現できる**ように記載しましょう。



# 抄録作成のコツ（症例報告）

## ■ 『経過』の書き方

- ✓ **理学療法介入中の出来事**（介入以外も含む）を簡潔に記載する。  
理学療法介入は1日中の1回の介入でしょうか？  
一定期間に渡る介入であれば、症例の経過を記載しよう。

『経過』は、症例に**どのような経時的変化**を  
認めたのかを簡潔に記載しましょう。





# 抄録作成のコツ（症例報告）

## ■ 『結果』の書き方

- ✓ **理学療法介入後の結果**を簡潔に記載する。
  - 介入結果を客観的に示す評価を記載しよう。
  - 著者の考えや解釈を記載しない（考察で記載する）。
  - 理学療法評価（初回評価）と対比できるように意識しよう。

『結果』は、理学療法介入の結果ですので、  
**介入前後の症例の変化**について記載しましょう。



# 抄録作成のコツ（研究報告）

## ■ 『考察・結論』の書き方

- ✓ **論理的かつ客観的**に考える  
自己の感情や先入観に左右されず、論理的かつ客観的に記載しよう。
- ✓ **エビデンス（EBM）**に基づいて考える  
最新のガイドラインや論文と照らし合わせ、自らの考えを記載しよう。
- ✓ **多面的**に考える  
複数の視点から介入結果について記載しよう。
- ✓ **研究の目的と一緒に**まとめる。  
目的が結果から明らかになったことを結論として記載しよう。



『考察・結論』は、科学的な裏付けに基づいて**論理的に自らの考え**を記載し、**研究目的と合わせて**結論を記載しよう。



# まとめ

## ■抄録作成のコツ

研究報告編を参照

『抄録』は、物語（ストーリー）、簡潔性、論理性、客観性、正確性を意識しよう。

『タイトル』は、一目で発表の内容を表現できるタイトルを考えよう。

『はじめに・目的』は、背景・課題・意義・目的を簡潔に記載しよう。

『理学療法評価』は、客観的な評価結果を記載しましょう。

『理学療法介入』は、読者が再現できるように記載しましょう。

『経過』は、症例にどのような経時的変化を認めたのかを簡潔に記載しましょう。

『結果』は、介入前後の症例の変化について記載しましょう。

『考察・結論』は、科学的な裏付けを基づいて論理的に自らの考えを記載し、

研究目的と合わせて結論を記載しよう。



# 第41回神奈川県理学療法士学会

学会HPにジャンプ

CLICK

## 挑戦か安心か

変化する社会で生き抜く理学療法士の見つけ方

第41回神奈川県理学療法士学会

The 41st congress of Kanagawa Physical Therapy Association

学会HPのQRコード



<https://congress-kpta.jimdofree.com>



公益社団法人  
神奈川県理学療法士会  
Kanagawa Physical Therapy Association

